

手稲山麓の森やそこから流れる川をフィールドに
親子で楽しむ自然体験活動 手稲さと川探検隊

特集エゾアカガエル 第1回カエルの卵ソン

4月24日(日)カエルの卵探し

かつては沢山の両生類が生息していたと考えられる手稲山麓で、都市化によって多くの生息地が失われた今、どこにどれくらいのカエルが残っているのか、それはどんな条件のもとなのかを調べました。さらに探偵団の斉藤和範さんを今回は講師にお迎えして楽しいお話もいっぱい聞きました。

今回の調査は事前に航空写真で残っている林を調べ、卵を産める池があるか踏査して候補地を絞っておき、同日2グループを地域分けして同時に出発、7箇所の候補地で卵塊の有無と周囲の環境について調べました。今後は更に地域住んでいる方々からの情報を集め過去からの生息地点の推移も含め結果をマップにおとしたり、HPで紹介したりしていきます。私たちの住む地域の自然がどのように変化し今に至っているのか、そしてカエルも住める地域にしていくには私たちがどのようにしていけば良いのか、子ども達にも調査や遊びを通して理解してもらえたら良いなと思いました。

生息に必要な条件

午後からは集めた情報をグループごとに過去の地形図等も見ながらまとめ、調査結果を発表しました。斉藤さんも話してくれましたが、地形や環境の改変によって大きく生きもの達の生活は変化しました。過去の地形図なども利用して環境変化を知ることによって現在カエルが生息してそうな場所の推測ができるのです。

また調査の結果からも、周囲の木や草の種類も大切な要素とわかりました。

生活するための林や森、卵を産むための沼等の水場、両方が揃わなくてはエゾアカガエルは生息できず、それが両生類たる所以なのです。

手稲・西区地域のエゾアカガエルの生息情報を集めています!

さと川では今回の第1回卵ソンに引き続き、毎年調査を行い過去と現在の卵塊・カエル生息情報を整理していきたいと考えています。「〇〇



年前△△が出来るまではここでよく見た」「学校の裏の側溝で先週見た」「昔子どもころよくとって遊んだ」「去年カエルの鳴き声を聞いた」などの情報がありましたら是非お寄せ下さい。近々web上でサイトを開く予定でいます。ご協力よろしくお願い致します。

2011/1/9さとmoriあそび スノーシューで生きもの探し&クラフト

手稲山麓の森で冬の生きもの探し。スノーシューで森に入ればどこまでも行けてしまいます。冬の森には不思議がいっぱい。何年前かにモモンガの巣を見つけてそこからひょっこり顔を出した姿を見た場所、鹿が食べた木の皮の痕跡や沢山の糞、へんてこな冬芽、動物の足跡も雪があるからこそです。毎年楽しむソリ遊びもとっても楽しいです。今回はアイスフレイクに森林療法を取り入れてみました。冬の澄んだ空気を胸いっぱい吸い込むとこんなに気持ち良かったのかと改めて思えます。午後からは森で拾った材料でリースと、羊毛でクマゲラ作り。初めてとは思えないほどの完成度でした。



カエルの卵ソンとは?

「カエルの卵調査+マラソン」の略語で植物調査の「フラワーソン」のカエル版です。長期の調査を参加者で行い生息環境の現状や変化を理解し参加者や地域の人々と共有することにより地域の自然環境に対する関心を高めることを目的としています

2011.2.19～20パラダイスヒュッテ宿泊 イグルー作りとキャンドルナイト

山小屋とイグルー、そしてキャンドルのコラボ

手稲パラダイスヒュッテでイグルー作りとキャンドル作りを行いました。イグルーは事前の準備を念入りに行い素晴らしい出来となりました。同時進行でドームキャンドルとスノーキャンドルも行いましたが、外気の温度の関係で破裂する事が予想されたため注意を払ったのと、薄すぎるとひびが入ってしまうのでその辺りも難しかったです。スノーキャンドルはイグルーとパラダイスヒュッテを取り囲む様に作りました。夜の点灯は月と星明りのみの森に浮かび上がる山小屋とキャンドルの灯りが幻想的でした。

中に入ると重労働！？

雪のブロックを積み上げていくイグルーは全ての工程に難しさがあり、切るブロックにも角度が重要だったり外側からブロックの位置を確認しながら指示する役目も必要です。イグルーは最後に壁を破って内側から出入り口を作って出来上がるのですが、中に最後まで入って作業する人が必要です。ただ2人入ってしまうと途中で抜けられないので要注意。特に大人2人はなかなかきついです。中では1人はかかっているような状態で、1人が天井がふさがれるまでずっと作業を続けます。今回も気がついたら写真の背の高い2人が残ってしまって大変そうでした。ぎゅーぎゅーでしたね。ちなみに今回の設計図によれば高さ170cm、出入り口の幅は60cm。お疲れ様でした！



2011/3/6さとmoriあそび(1) 木育モニタリングここいく共催

北海道発の言葉で「木育」があります。5月からコープ札幌西宮の沢店で「木育職人塾森のものづくり」が開講されますが、それに先立ってさと川の活動で木育を感じてもらおうと、モニターを実施しました。木を使ったものづくりの他に自然体験活動も盛り込まれた職人塾と言うこともあり、さと川の活動を体験して両方の楽しみ方を実感してもらえたと思います。森の中でのぞり遊びは格別でした。保護者対象の「大人のための木の話」では樹液が出始めの木があって舐めてみたら驚くほどの甘さ。目印付けて改めて採取し、後日シロップにして食べました。たいへん美味でした。



2011/3/19 さと川まどめの会 「さと川スペシャル」

一年間の活動をふりかえり、いつも参加してくれる子ども達に修了証を渡したい。そう思って開催した「さと川スペシャル」。会場の飾りつけもスタッフで工夫しました。自己紹介や1年間の活動スライドショーを見たり、採取してきた樹液でシロップを作ってホットケーキに付けて食べました。代表から子ども達一人ひとりに手書きの修了証を授与。姫田さんのかたつむりの飼育スライドも楽しみました。いつもとは一味違うさと川の日でした。



さとmoriあそびとさとkawaあそび・木育のはなし

小さな頃から森や川など自然の中で遊ぶ事はとても大切な事ですよね。何度も通うその森や川が自分達のふるさとのようにこの先ずっと変わらない姿で残っていて欲しいといつも思います。自分にとってのさとmori、さとkawaはどこですか？子ども達にも週末に自分の森や川に帰る喜びを知って、その大切さを感じる心も育てて欲しいと思っています。いつものフィールドに自分のお気に入りの木を見つけて毎回その気に触れて来る、話かけてみる。木は生きていて自分を受け入れてくれる様な気がします。そんな風にさりげなく木と触れ合ったり心を寄せたりするのも木育なのかなと思っています。

次回活動予告

※6月4日(土)さとkawaあそび(3)手稲山麓の川で生きもの探し&ハルニシの種拾いと種まき。コープ共催。川に入って生きもの探し。ハルニシの種まきで森作りします。詳細はHP・またはお問い合わせ下さい。

※6月11日(土)さとmoriあそび北大ワンダーフォーゲル部主催 奥手稲山初夏の植樹。さと川は共催として参加します。森を育てる活動です。

※7月2日さとkawaあそび川の生きもの探し
※7月30・31日さとmori&kawaあそび4川流れとコウモリ探しinパラダイスヒュッテ宿泊コープ共催。

コラムシリーズスタート！

第1弾 かたつむりらぼ全10回

記事・写真 姫田丞

◇カタツムリ

みなさんはカタツムリを見たことがありますか？と聞かればほとんどの人はカタツムリを見たことがあると思います。身近な生き物で、かたつむり、でんでんむし、まいまいなどの名前で親しまれているカタツムリ。私たちが活動している手稲でももちろんカタツムリが見られます。

ここでは、このカタツムリについて全10回に分けて紹介していこうと思います。内容は次のとおりです。

1回目はカタツムリの体、2回目はカタツムリの種類、3回目はカタツムリの食事、4回目はカタツムリの住家、5回目はカタツムリの生活、6回目はカタツムリの繁殖、7回目はカタツムリの成長と寿命、8回目はカタツムリのスピード、9回目はカタツムリの敵、10回目はカタツムリの飼い方を予定しています。

今回は初回のカタツムリの体について紹介します。



1. カタツムリの体

カタツムリは見かけどおり巻貝の仲間、硬い殻と軟らかい体(軟体部)でできています。

殻は海の貝に比べ、薄くて軽くできています。渦巻きのはじめの部分で入り口から最も奥の部分で殻頂といえます。殻頂を自分に向けて見たとき渦巻きが時計回りの場合は右巻き、反対の場合は左巻きと言います。

次に軟体部ですが、触角(つの)が2対あって、上側の大触角の先端に目があります。下側の小触角は味覚と嗅覚をつかさどっていて小触角を動かして食べ物を判別しています。これらの触角は触ると引っ込めます。このとき皮膚を反転させて内側に引き込んでいきます。目が出てくる瞬間をよく観察すると目玉が触角の中を移動しているのがわかります。そして、口ですがここには歯舌いうやすり状の歯があります。

最後にカタツムリの特徴である粘液(ねばねば)ですが、これは乾燥を防ぐためと、移動のときの潤滑のためといわれています。この粘液のため、カタツムリが移動した痕にキラキラ光る筋が見られます。

さて、今回はカタツムリの体について紹介しましたが、次回はカタツムリの種類について紹介しようと思います。札幌近郊で見られる5種類のカタツムリについて紹介します。

手稲さと川探検隊

会員募集中！

手稲さと川探検隊の仲間になりませんか！

1. 探検隊員 川の生きもの調べなどのイベントに参加できる方。
 年会費 1人1000円 (ファミリー会員 1家族1800円)

2. 応援隊員 手稲さと川探検隊の活動を応援してくださる方。
 活動応援費 1回 500円 (イベントの案内・ニュースレター等を送らせていただきます。
 スタッフ 各イベントの実施サポート、広報、企画などをお手伝いしてくださる方。

手稲さと川探検隊

代表 鈴木 玲

mail [+satogawa@mail.goo.ne.jp](mailto:satogawa@mail.goo.ne.jp) tel 080-1891-7847
 HP <http://www.sapporo-web.com/satogawa/>

連載 初回拡大版

代表れいさんのつぶやき No. 1

手稲山の麓の林の中、パチパチと剪定バサミを片手にササを切りながら「オレの道」を作り、振り返ると確かに出来ている「道」にはくそ笑むのである。

僕らが子どもの頃（昭和40年代）高度成長のさなか、公害も自然破壊も全盛だったが、まだまだ自然がいっぱいあって、身近にザリガニのいる湧き水、渡るのに勇気がいるけど魚が釣れる川、サンショウウオのうぢやうぢやいる池、セミ時雨の雑木林、キリギリス鳴く原っぱ、秘密基地の作れる林、それから危ないことをしているとガツツリ叱る怖いオヤジや婆さんもいて、その上幸いなことに手軽に遊べるゲームも自由に見れるテレビもなかった。お陰で僕らは生きものに触れ、見つけて喜び、獲っては飼って死体にし、蟻塚を破壊しては逆襲に遭い、カエルを爆破しては言いようのない想いに包まれ、川に落ちては死んだ心地を味わい、年上のお兄ちゃんから技や知識を伝授され、それをまた年下に伝授し、助け合ったり意地悪したり遊びを創造したり、生態を推理したり…毎日、五感をフル稼働して生きそれらは全て僕の血となり肉となり（腹の周りはアルコール由来？）今を生きる知恵となっていると思う。

でももうこの辺では身近な自然は遠退き、川ガキや森ガキは今や絶滅危惧種、僕らと諸先輩らオトナがみんな便利さ・安さなんかと引き換えに悪魔に渡してしまったんだろうか。昨今の困難な社会やこのたびの震災・原発事故とその対応を見るにつけ、そこで奮闘する若者や子ども達に感激するとともに、周りの子ども達から奪ってしまった身近な自然や与えている安易なエンターテイメントによって、彼らから生きる力を身につける機会をかなり減らしてしまったんじゃないかと自責の念と不安に襲われる。たぶん僕らオトナも毎日大地に触れることなく、季節の移り変わりにもあまり気付かず、夕陽の落ちていく時間を地球とともに過ごすことなく、星も見ず、さまざまな目の前のことに追われているうちに、どこかズレてしまっていて壊れてきてしまっているんじゃないかを感じる。



僕はそんなとき、近くの森や川へ出かけていく。たくさんの生きとし生けるものに囲まれ、大地を踏みしめて歩くと、なんだか勇気が湧いてくる。お気に入りの木に話しかけるときの（抱きしめることもあるが）温かさに包まれる。川でひたすら網で魚を追うとき、焚火を囲んで語り合うとき、深い青空に流れる白い雲を見つけたとき、ただただササを切って道を作っているとき、「俺は大地とともに生きている」と感じるんだ。だって、僕らは地球から生まれ地球に還っていく、生きていてさえ新陳代謝によって身体の物質は日々飲んだ水や食した他の生き物と入れ替わっていつているんだし…。

そんな風な時間を、多くの子ども達、そしてオトナたちと共有していきたい。環境教育なんてしない。感じてくれたらいい。少しの知識と知恵とがあれば自分で自然と付き合える。そのうちボディブローのように利いてくるはずだし、利いてこなくてもいい。だんだん強くなり、優しくなり、笑顔になり、目が輝くときが増えてくる。そんな子どもやオトナと付き合いながら、自然の中でへらへら笑っているのが、いちばんの幸せ。（つづく）